

奄美野生生物保護センター  
ニュースレター

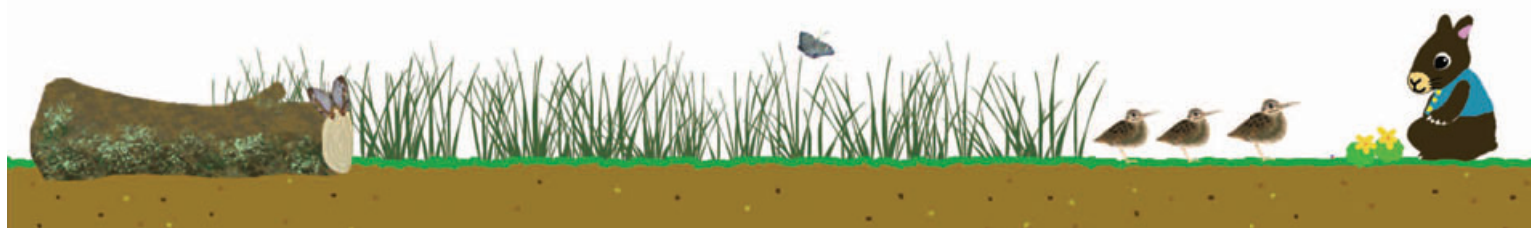
# 奄美の風だより



寒い季節となりました。奄美の冬は風が強いので体感温度がけっこう低いです。白波が立ち荒れる海に、窓のすき間からピューピューと風の音。なるべく外に出たくない・・・こたつで丸くなりたい・・・と心から思います。しかし、人が丸くなっていたいと思っても、植物たちは寒いなんて言ってもらえないわ！とばかりにしゃんと美しい花を咲かせています。上の写真は冬から早春の寒い時期に咲いているものです。白、黄、赤、紫など見る目も鮮やかです。奄美の山、人里、海岸などは、四季を問わず一年中さまざまな花に彩られています。寒い時期にも野山に美しい花が咲くというのは、奄美の見所の一つのように、旅行会社の方に「ヒカンザクラだけではなくその時期に咲く花を教えてください。」と聞かれたことがあります。なるほど、地元の人が見落としてしまう奄美の良い所を改めて教えてもらいました。

しかし、美しい花が咲く時期になれば、話題になるのは盗掘の問題です。いつの日か、「盗られた！」という話題ではなく、「地域全体で保全したおかげで美しい花々をいたるところで見られます。」という話題が上るようになってほしいと思います。

(吉田)



# 今の時期に見られる動植物



ムベ（実）

低地から山地の林縁に生える常緑性のある性木本。実は暗紫色に熟すがアケビのように裂開しない。美味しい秋の味覚。



オキナワギク

奄美大島、徳之島、沖縄島の固有種。海岸の岩場に生える多年生草本。葉は丸く厚い。葉と茎には毛が生える。花期は10月から1月。



オオバン

奄美へは冬鳥として渡ってくる。記録のある島は奄美大島、徳之島、沖永良部島。黒い体色に、白色のくちばしと額が目立つ。



ピンズイ

奄美には旅鳥および冬鳥として渡ってくる。記録のある島は、奄美大島、加計呂麻島、与論島など。山地や松林を好んで生息する。

## 今季の一枚 「どんぐり」

栗の代表どんぐり。どんぐりは野生動物たちにとって秋冬のエサが少ない時期の重要な食べ物となります。そのため、どんぐりの豊作・不作は生きものたちに大きな影響を与えます。

どんぐりは、鳥類、ほ乳類が主に食べます。奄美には固有種を含め多種多様な生きものたちが生息していますが、その生きものを支えている重要な存在であり、奄美の多様性を生み出しているといっても過言ではないでしょう。

また、どんぐりが不作の年は、イノシシが山のふもとまで下りてきて畑を荒らし、農作物の被害が多くなるなど、私たちの生活にも影響を与えます。





# 奄美群島市町村だより

自分たちの地域の魅力を再発見し、また他の地域のことを知り、奄美の自然について理解を深めましょう。



今回は

## 天城町

です



天城町全景

天城町は徳之島の北西部、徳之島のほぼ西半分を占めます。トライアスロンも有名で鉄人たちの島とも言われスポーツに最適な環境です。

### 天城町の木



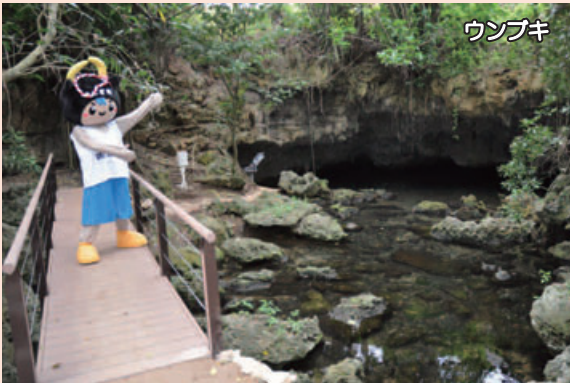
### 【ソテツ】

「生ける化石」と呼ばれている植物。またその実、幹からはデンプンがとれ、色々な食品に加工され、戦時中は島民の食料源として重宝されました。



おすすめ

## 観光名所「ウンブキ/ムシロ瀬/犬の門蓋」



ウンブキ

### 【ウンブキ】

この鍾乳洞は方言でウンブキと呼ばれ、かつてサンゴ礁が地上に隆起して鍾乳洞ができ、再び海に没した海底洞窟です。およそ400m先で海につながり、干満の影響で水位が変化します。海水と地下水が混じり合うアンキアライン洞窟で、発見例が少なく和名もついていない魚やエビが生息しています。さまざまな植物が同居しており、森を好む野鳥、アカヒゲも生息しています。(空港から3分)



ムシロ瀬

### 【ムシロ瀬】

南国には珍しい花崗岩の海岸線はあたかもムシロを敷き詰めたような巨岩が連なっており壮大な景観。北風が吹きつけるので、冬場は特に豪快なしぶきが上がり普段とはまた違った姿を見ることができます。また、外海に面しているため釣り好きにとっては回遊魚の釣り場としても定着しています。海岸付近には大島紬の染料に使う「車輪梅(シャリンバイ)」が群生しています。

(空港から15分)

### 【犬の門蓋】

季節風や荒波によって浸食された断崖・奇岩がそびえ立つ。メガネのようにくりぬかれたメガネ岩もそのひとつ。一帯は東シナ海に面し、大海原に水平線が広がり、夕日の眺めは訪れる人を魅了します。(空港から15分)

(天城町 商工水産観光課)



犬の門蓋

# いきもののいる風景 ~ヘビについて~

奄美には9種のヘビが生息していますが、ハブのように人に危害を加えるものもいるため、人にとっては恐ろしい存在であり、また見た目などからあまり好かれる生きものではないかもしれません。しかし、ハブは生態系の頂点という重要な位置にいますし、他のヘビも生態系の中でとても重要な役割をはたしています。今回はヘビにスポットをあて、興味をもつきっかけになればと思います。

## 奄美にいるヘビの種類



**ハブ**  
奄美群島（喜界島・沖永良部島・与論島などを除く）と沖縄諸島（伊是名島・粟国島などを除く）に生息している毒ヘビです。体色はさまざまで、「金ハブ・銀ハブ・黒ハブ」など個体差があります。山地から民家の周辺、地上から樹上まで幅広い環境に住んでいます。眼と鼻の間に熱を感知する「ピット器官」があり、この感覚器を使い獲物を捕らえます。体はスマートで細長く頭部は長三角形で大きく目立ち、全長は最大で240cmを超えます。

**ヒャン・ハイ**（環境省第4次レッドリスト準絶滅危惧種）  
ヒャンはオレンジ色に黒い横帯が入る鮮やかなヘビで、奄美大島と加計呂麻島・与路島・請島に生息しています。徳之島には別亜種のハイが生息しています。オレンジ色に黒い縦帯が入ったヘビで、コブラ科に属し、毒はハブより強力ですが、性質が温和で口が小さく人体に牙を刺せないため、被害報告はないようです。全長は30～60cm、夜行性で常緑広葉樹林などの湿潤な環境に住んでいます。尾の先に硬い部分があり、つかむと刺してきますが、毒はありません。

**リュウキュウアオヘビ**  
トカラ列島の宝島・小宝島と奄美・沖縄の島々に広く生息しています。奄美大島では「アオダイショウ」と呼ばれることもあり、山地から平地、民家付近まで広く見かけますが、基本的には主食となるミミズの生息する湿度の高い林床に住んでいます。体色は個体による変異が大きく、背面は緑色や茶色で、腹面は白色や鮮やかな黄色です。無毒で全長は70～80cmになります。

**アカマタ**  
奄美群島・沖縄諸島に生息しています。奄美大島では「マツブ」と呼ばれ、人家付近から山奥まで幅広い環境に住んでいます。性質は荒く近づくと鎌首を持ち上げて、威嚇体勢を取ります。体色は赤褐色の地に黒褐色の横縞模様が入り、一見すると毒々しいイメージですが無毒です。日本のマダラヘビ属中最大で全長80～170cmになり、魚からカエル、ネズミまでと食性は幅広く、まれに孵化直後のウミガメも食べることがあります。

**ヒメハブ**  
奄美群島（喜界島・沖永良部島・与論島などを除く）と沖縄諸島（粟国島などを除く）に生息しています。奄美大島では「マムシ」と呼ばれることがあり、ハブと同じく夜行性です。湿った環境を好み、山地から民家付近、森林の水辺や水田などに住んでいます。ハブよりも毒は弱く、性質もおとなしい上に動きも鈍く、主にカエルを捕食しています。体色は褐色で暗色の斑紋が帯状に入り、全長は30～80cmで、太く短いのが特徴です。

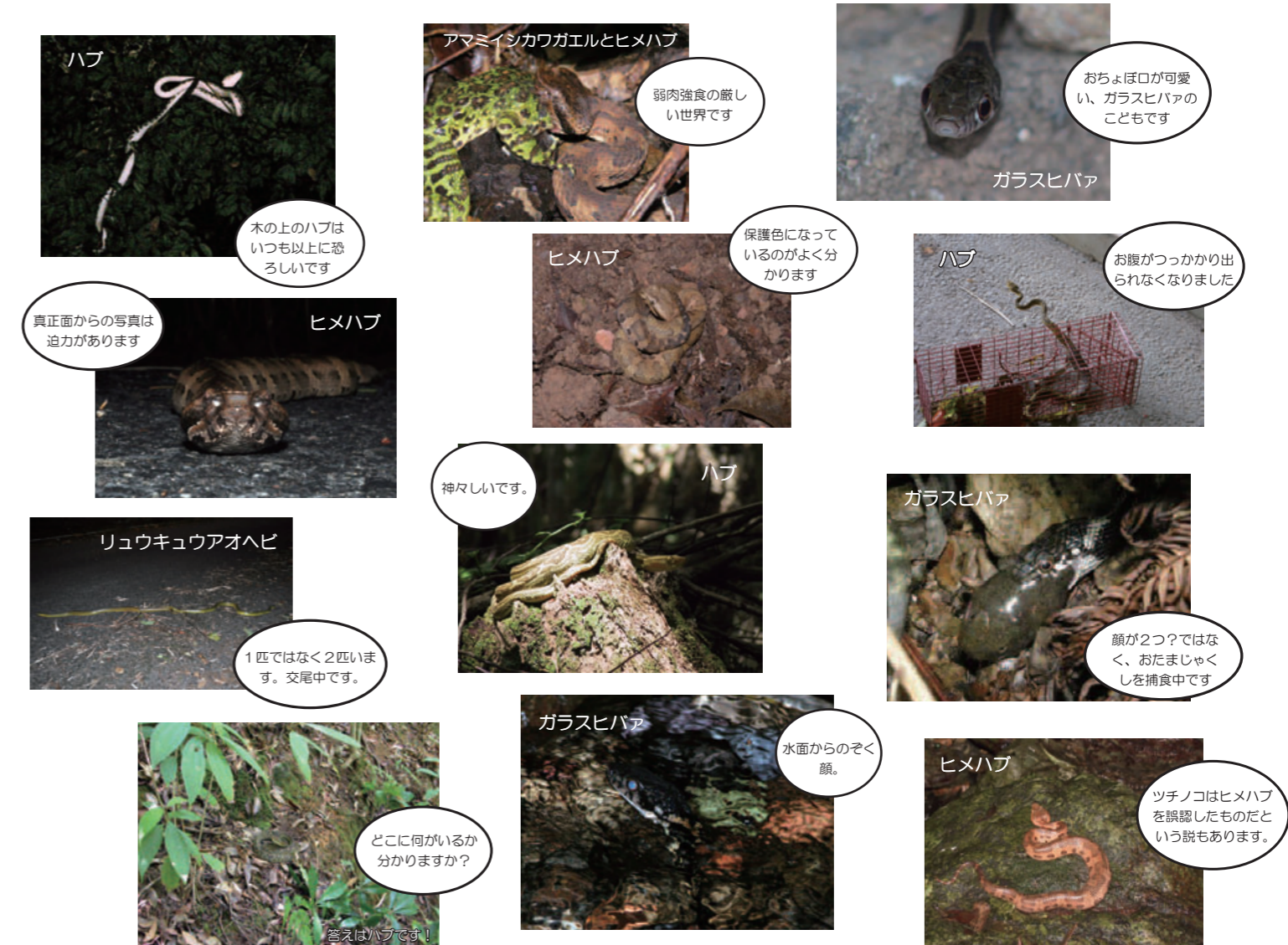
**ガラスヒバァ**  
奄美群島と沖縄諸島に生息している毒ヘビです。全長75～110cm、川や湿地などでよく見かけます。動きは素早く、主にカエルやオタマジャクシを食べますが、時にはトカゲ類も食べるそうです。

**アマミタカチホヘビ**（環境省第4次レッドリスト準絶滅危惧種準絶滅危惧種）  
奄美大島、徳之島、枝手久島、沖縄島、渡嘉敷島に生息しています。全長20～55cm、湿った森林や山地などの倒木や岩の下に潜んでいます。夜間に活動することが多く、主にミミズを食べています。

**プラミニメクラヘビ**  
原産地がよくわかっていない外来種で、日本でもトカラ列島以南の南西諸島などに侵入、定着しています。全長16～22cm、倒木の下などに住んでいます。ミミズのような外見ですが、体表はうろこでおおわれています。ヘビ類の中では唯一、すべての個体が雌という珍しいヘビです。

## ヘビアルバム

ヘビが見せるさまざまな姿をとらえました。



木の上のハブはいつも以上に恐ろしいです

アマイシカワガエルとヒメハブ  
弱肉強食の厳しい世界です

ガラスヒバァ  
おちょぼ口が可愛い、ガラスヒバァのこともです

ヒメハブ  
保護色になっているのがよく分かります

ハブ  
お腹がつかかり出られなくなりました

真正面からの写真は迫力があります  
ヒメハブ

ハブ  
神々しいです。

ガラスヒバァ  
顔が2つ？ではなく、おたまじゃくしを捕食中です

リュウキュウアオヘビ  
1匹ではなく2匹います。交尾中です。

ガラスヒバァ  
水面からのぞく顔。

ヒメハブ  
ツチノコはヒメハブを誤認したものだという説もあります。

どこに何がいるかわかりますか？  
答えはハブです！



## アマミノクロウサギ交通事故防止キャンペーン

とき：平成 25 年 10 月 1 日～10 月 31 日  
 特別イベント  
 とき：平成 25 年 10 月 12 日、26 日、27 日  
 アマミノクロウサギの交通事故を防止するため、アマミノクロウサギの着ぐるみ「あまくろ」と一緒に、チラシ等の配布を奄美大島と徳之島で行いました。配布には、奄美大島エコツアーガイド連絡協議会や徳之島虹の会など、多くの方々にご協力いただきました。



## 野生の鳥とどうつきあうか

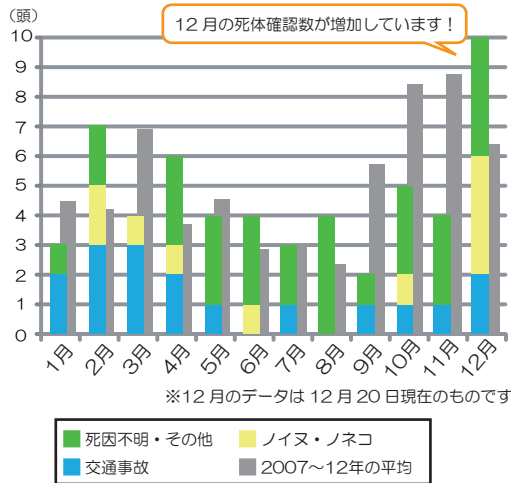
～鳥がケガをする要因とその救護について～

とき：平成 25 年 11 月 10 日 (日)  
 場所：奄美博物館  
 講師：伊藤圭子獣医師 (奄美動物病院)  
 水田拓自然保護専門員 (奄美野生生物保護センター)  
 参加人数：20 名程度



## アマミノクロウサギ死体確認数

(2013年 アマミノクロウサギの死体確認数と死因)



※アマミノクロウサギがケガをしていたり、死んでいるのを発見したら奄美野生生物保護センターまで連絡して下さい。



## 奄美に住む動物たちのために、あなたができること

### 安全運転

特に夜間の林道では20km/h以下で走行しましょう。

### 犬・ねこの適正飼育

野生化した犬・ねこは、アマミノクロウサギをはじめとした「奄美の森の宝」を食べてしまうこともあります。

#### 捨てない

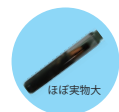
最後まで責任をもって飼いましょう。

#### 不妊・去勢手術

繁殖制限することで、望まれない命を生み出さないことと、ペットの健康を守ることにあります。

#### マイクロチップ

ペットの確実な身元証明になります。



### ねこに関するお知らせ

奄美野生生物保護センターでは、アマミノクロウサギなどの奄美の生きものを守るために、山で野生化したしまったノネコを捕獲する活動を行っています。また、捕獲したノネコたちを人に慣らし、新たな飼い主を見つける里親さがしにも取り組んでいます。現在センターには9匹のねこがあり、里親と一時ボランティアを募集しています。一時ボランティアは、1カ月程度から任意の期間で飼い主の都合に応じて面倒を見ていただく制度です。興味のある方は、是非センターまでお電話下さい。

## いきものおもしろ写真館



### ゾウムシ

長い鼻のようなものは口です。長く伸びた口を鼻にみたく「ゾウムシ」となったそうです。個人的な感想ですが名前もフォルムも可愛らしくてとても好きです。初めて見たとき「こんな生きものがいたのか!!」と衝撃をうけました。

## 編集後記



今年もどんぐりは不作のようですが去年よりはましなような気がします。数少ないどんぐりをルリカケスはせっせと食べていました。警戒心の強い鳥ですが、このときばかりはどんぐりに夢中でじっくり観察することが出来ました。